

# 神田外語大学におけるオンライン授業実践

—Innovation KUIS の取り組み—

吉野 知義\*

## Online Classroom Practice at Kanda University of International Studies: Activities of Innovation KUIS Project

YOSHINO Tomoyoshi

Abstract:

In March 2020, due to the spread of COVID-19, Kanda University of International Studies decided to conduct all of its first semester classes as online classes.

In this unprecedented environment, various measures were taken to implement online classes with the main goal of providing high quality learning opportunities. One of these measures was the Innovation KUIS project, which provided support for online classes to faculty and students so that they could take on new learning challenges and acquire unprecedented values and creativity.

In this paper, we will introduce the activities of the Innovation KUIS project that led to the successful implementation of online classes.

キーワード： オンライン授業、 Innovation KUIS プロジェクト、 質の高い学習機会

### 1. はじめに

2020年初頭からの新型コロナウイルスの感染拡大により、全国の大学は新年度の授業の対応を迫られ、神田外語大学(以下、本学)においても例外ではなくオンラインでの授業を実施する決定がなされた。これを受けて、2020年度前期授業は、すべてオンラインで開講されることとなり、授業の内容や形態にあわせてリアルタイム型やオンデマンド型を駆使することと

---

\* 神田外語大学 学術・研究支援部 ゼネラルマネージャー

なった。

しかし、本格的なオンライン授業はこれまでに実施したことがなく、教員だけではなく学生や職員も一体となって取り組むことが求められた。本稿では、オンライン授業の実践に至る学内での取り組みを中心に、教員への展開や学生へのサポート活動などについて報告する。

## 2. オンライン授業実施に至る経緯

新年度を控えた3月には、新型コロナウイルスの感染拡大がニュースでも連日報道され、日本国内でも現実のものとして捉えられるようになっていた。直前の2月28日からは、全国の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等において一斉臨時休業とすることが文部科学省によって決定された。そのような中で、大学の対応はそれぞれの大学に委ねられることとなり、本学でも学内での議論が開始された。

はじめは、英語教授法や応用言語学の修士課程以上を修了した、世界各国から招聘された教員で構成する組織で、本学の英語授業の多くを担当している English Language Institute (ELI) の教員からであった。ELI 教員による授業は本学の英語教育の大きな特徴でもあるが、オンラインツールの活用で ELI の英語カリキュラムを完全にカバーできるというプレゼンテーションが大学トップ層に向けて行われた。これを受けた大学トップ層の決断は早く、3月31日の教授会にて審議の結果、オンライン授業の実施が大学の決定事項となった。

具体的には、2020年度前期の授業をすべてオンライン授業とした上で、授業開始を当初の4月7日(火)から4月27日(月)に延期し、それまでの期間で教職員・学生が協力して、オンライン授業の実施に向け準備を進めることとなった。その基本方針としては、学生の学習機会を可能な限り確保し、本学関係者の新型コロナウイルス感染リスクと同時に地域社会に感染を広げる原因となるリスクを可能な限り下げることとした。つまり、本学におけるオンライン授業実施の位置づけは、質の高い学習機会を提供することに一貫している。

この取り組みが "Innovation KUIS" であり、石井雅章准教授(当時)を推進

リーダーとした教職員による実行組織として Innovation KUIS プロジェクト（以下、プロジェクト）が立ち上げられ、その後のサポート活動を展開することとなった。

### 3. 教員・学生に向けたサポート活動

オンライン授業の実施に向けたサポート活動は、授業を行う「教員」を重点的にする必要があるが、授業を受ける「学生」にもオンライン授業の受講に必要なスキルを身に付けておくようにする必要がある。さらに学生は、在學生と新入生の間に大きな差がある。例えば、新入生は例年入学直後に行われる各種のガイダンスを受けていないため、メールの受信などできない状態から始めなければならない。そのため、Innovation KUIS では、教員・新入生・在學生の3つの対象者層に分け、それらを並行してサポート活動を展開することとした。

本学では、2014年度から iPad の必携を進めていたため、在學生はもちろん、新入生も入学に向けて iPad を所持している状況であった。そのため、学生は iPad を使用してオンライン授業を受講することができた点は、本学のオンライン授業実践において大きなメリットとなった。

また、オンライン授業において使用するツールとして、リアルタイム型に向けたオンライン会議ツール Zoom、オンデマンド型や課題管理に向けた学習管理システム（LMS）Google Classroom を推奨することとした。Zoom は、すべての教員が使用できるように新規に全学でライセンス契約をした。Google Classroom は、すでに Google Workspace for Education を全学で契約しており、一部の授業では活用されていた。

そして、授業開始の4月27日までの約1ヶ月、下図（図1）のようなスケジュールを立ててサポート活動を進めることとなった。それぞれの対象者層ごとにどのようなサポートを展開し、オンライン授業の実践へと至ったかを述べていく。

#### 3.1. 教員に向けたサポート

教員に向けたサポートは、オンライン授業実践の根幹として最も重点を

図1 オンライン授業サポートプラン

2020年3月31日 教務委員会、教授会資料 オンライン授業支援チーム		オンライン授業に向けたサポートプラン(スケジュール概要)			
月日	教員向け	3/31教授会	新入生向け	新入生の 保護者向け	在学生向け
4月1日(水)		①オンライン授業 サポートWeb公開			
4月2日(木)	② (各自) Zoom接 続テスト サポート				
4月3日(金)		シラバス入 力方法告知	学生証ほか発送(保護者宛)		在籍証明書ほか発送
4月4日(土)					
4月5日(日)					
4月6日(月)			① 各自で設定 ・CampusWeb ・KUISメール ・Zoom		① Google Classroom 体験
4月7日(火)	③ Zoomホ スト設定 体験サ ポート	④ Google Classro om体験 サポート			
4月8日(水)					
4月9日(木)					
4月10日(金)				① オンライ ン授業 受講体 験	
4月11日(土)					
4月12日(日)					
4月13日(月)			② (来学) ガイダ ンス ・学科専 攻別 ・メディア オリエン テーショ ン		② Zoom接 続体験
4月14日(火)					
4月15日(水)	⑤ 個別サ ポート			オンライン授業アクセ ス方法告知	
4月16日(木)					
4月17日(金)					
4月18日(土)					
4月19日(日)					
4月20日(月)					
4月21日(火)					
4月22日(水)	⑥ オンライ ン授業 開講 体験サ ポート		③ オンライ ン授業 受講 体験		③ オンライ ン授業 受講体 験
4月23日(木)					
4月24日(金)					
4月25日(土)					
4月26日(日)					
4月27日(月)			授業開始		授業開始
4月28日(火)					
4月29日(水)	⑧ オンライ ン授業 運用 サポート				
4月30日(木)					

出典：2020年3月31日 神田外語大学教授会資料

置いて、多くの時間をとって行った。以下のサポートを順次展開していったが、教員同士のコミュニティによる勉強会も行われていたと聞き、また、これらのサポートは専任教員だけではなく、多くの授業を担当している非常勤講師も参加可能とし、大学全体として質の高い学習機会を提供することの実現を目指した。

### 3.1.1. オンライン授業サポート Web サイト

Google サイトによる Web サイトを立ち上げ、継続的に情報を提供する場とした。Zoom や Google Classroom の使い方、オンライン授業の組み立て方や著作権についての注意点、およびこれ以降の支援スケジュールもここで共有し、教員が最新の情報を入手できるようにした。また、教員からの問い合わせも受け、回答もこのサイトで公開して類似の課題を持つ教員同士での情報共有につなげた。

### 3.1.2. Zoom 接続テストサポート (各自)

まずはじめは、初歩的なところではあるがリアルタイム型のオンライン授業で使用する Zoom の接続テストから始めた。ほとんどの教員が Zoom の使用経験がなかったため、プロジェクトが用意した確認用の Zoom ミーティングに接続するまでを各自で行えるようマニュアルを提供して実施した。これにより、以降の段階は Zoom でのサポートが行えるようになった。

### 3.1.3. Zoom ホスト設定体験サポート

続いては、教員自身が Zoom ミーティングのホストとなって、オンライン授業のクラスを開設するまでを体験できるように進めた。実際に Zoom でオンライン授業を行う際に必要となるミーティング URL の取得方法や、録画や受講する学生に対して操作できるホストとしての機能などを説明していった。

この段階からは、支援プログラム自体も Zoom で実施できるようになっていたため、リアルタイムで疑問に答えたり、画面共有での解説が可能になっていた。

#### 3.1.4. Google Classroom 体験サポート

上記と並行して、オンデマンド型のオンライン授業で使用する Google Classroom のサポートを Zoom ミーティングを使用して行った。Google Classroom は学内でもあまり浸透していなかったため、初めて操作する教員も少なくなかった。

クラスの開講設定、クラスコードの取得、学生の登録の方法などからはじめ、Google フォームを使用した課題の出し方や学生からの提出や評価の方法など全般的な内容となった。

#### 3.1.5. 個別サポート

ここまでのサポートで、リアルタイム型の Zoom、オンデマンド型の Google Classroom でのオンライン授業の基本的な実践は可能な教員が増えて来た。その間、学部・学科内での教員同士による情報共有や検討の機会などもあり、全体としてオンライン授業に向けた機運の高まりも感じられた。

そこで、個別サポートは毎日 Zoom ミーティングを開設し、希望する教員が個別に参加して疑問などの解決に当てる場とした。参加していた他の教員との会話も発生し、オンライン授業に向けた不安感の払拭にもつながったと考えられる。

#### 3.1.6. オンライン授業開講体験サポート

新入生と在学生向けのサポートと連動して、体験用に教員が開講するリアルタイム型のオンライン授業に学生が参加し、模擬授業のような形で試行錯誤ができる機会を設けた。

実際に学生とのやり取りを経験し、音声の状態や画面共有の見え方などを確認することができた。ここまでで、授業開始の4月27日を迎えることになった。

#### 3.1.7. オンライン授業運用サポート

すでにオンライン授業は開始されていたが、実際に授業を行う際に教員

一人での実施が困難な場合を想定し、プロジェクトメンバーがリアルタイム型の授業に参加して操作を補助することを行った。

実際のところ、教員からのリクエストは少なかったが、後に学生を補助要員として参加させる SA サポートの取り組みにつながった。

### 3.2. 新入生に向けたサポート

オンライン授業に至る事前の準備として、学生向けのポータルサイト (CampusWeb) や大学が発行するメール (KUIS メール) へのアクセスを確立する必要があった。通常であれば、入学式で学生証を配布し、あわせて大学生活に必要な書類を配布する。その後、各種ガイダンスを実施するなかで、ポータルサイトやメールへのアクセスも指導していた。2020 年度においては入学式も中止となったためこれら一連のものは実施できず、新入生との連絡方法すらないことになる。そのため、新入生に向けては以下のサポートを進めた。

#### 3.2.1. CampusWeb、KUIS メール、Zoom の使い方 (各自)

学生証を保護者宛に発送すると同時に、メールとポータルサイトへのアクセス方法、さらに Zoom へのアクセステストを盛り込んだ資料を同封し、各自自宅から実行してもらうこととした。Google Classroom にこの手順を追ったクラスを準備し、新入生はこのクラスを進めることでメール等にアクセスできるようになり、大学側ではその進捗を確認することができた。

#### 3.2.2. 学科専攻別ガイダンス・メディアオリエンテーション (通学)

大学生活を初めて迎える新入生には、授業の履修についても指導する必要がある。この学科専攻別に行うガイダンスだけは特例として大学に通学しての対面式とせざるを得なかった。もちろん、教室あたりの人数を制限するなど、感染拡大防止には細心の注意を払って行った。

このガイダンスでは、ここまで各自で行っていたポータルサイトやメールへのアクセス、Zoom の使い方についての状況を確認することができ、

問題のある学生に対しては個別に相談にのるなどの対応をとった。

### 3.2.3. オンライン授業受講体験(教員サポートと連動)

同時期に教員向けに実施していたオンライン授業体験サポートと連動して、希望する学生は事前にオンライン授業を体験する機会を設けた。

### 3.3. 在学生に向けたサポート

新入生とは異なり、すでにポータルサイトやメールは利用しており、履修についても経験している。また、一部の学生は Google Classroom を使用した経験もあった。そのため、純粹に Zoom や Google Classroom の使用についてのサポートを告知し、希望者がそれに参加する形とした。

#### 3.3.1. Google Classroom 体験、Zoom 接続体験

これらはいずれも体験の場を提供し、プロジェクトで作成した Google Classroom のクラスや Zoom ミーティングに参加する機会を設けた。

#### 3.3.2. オンライン授業受講体験(教員サポートと連動)

新入生向けと同じく、同時期に教員向けに実施していたオンライン授業体験サポートと連動して、希望する学生は事前にオンライン授業を体験する機会を設けた。

## 4. その他の周辺の支援

### 4.1. インターネット接続環境整備

突然訪れたオンライン授業は自宅等からのインターネット接続が必須であり、携帯電話のキャリア企業は学生向けに通信費用を緩和する措置をとった。本学ではプロジェクトの一環として、インターネット接続の契約が間に合わない、または故障等で一時的に環境が整わない学生向けに、モバイルルータを貸与する対策をとった。



#### 4.2. Innovation KUIS 奨学金

経験したことのない学習環境に置かれた学生に対し、新しい学びに挑戦し、これまでにない価値観や創造力を獲得してもらえるように、全学生（留学生、休学者を含む）に「Innovation KUIS 奨学金」として、大学から一律 50,000 円を支給した。

#### 5. 2020 年度後期以降の授業について

2020 年度前期は、そのすべての期間において、授業をオンラインで実施した。2020 年度後期からは、すでに首都圏の緊急事態宣言が解除されていたことを受け、一部の授業を大学のキャンパスで実施する対面形式とすることとなった。さらに、2021 年度からは原則として対面形式での授業実施とし、履修者の多い科目など一部の授業においてのみ引き続きオンラインでの実施となった。

そのため、2020 年度前期のようなオンライン授業の実施に向けたサポートは必要ではなくなったものの、ひとつのクラスで対面受講学生とオンライン受講学生が混在するなどの状態が発生することとなり、いわゆるハイフレックス型の授業形態も想定することとなった。このような状況で円滑な授業実施を支援するため、教員向けのオンライン授業相談サロンを随時オンラインで開催し、個別の課題を相談できる場を設けてきた。

#### 6. オンライン授業の実施状況の検証

これまで経験したことがないオンライン授業であり、教員、学生ともにスムーズに実施できているかどうか、進め方や各種ツールの使い方、授業全体の満足度などを常に検証し、問題点があれば改善することも必要である。この点については、2020 年度前期から、教員向けと学生向けに継続的にアンケート調査を実施しており、詳細については別稿に委ねる。

#### 7. さいごに

「オンライン授業が目的ではなく、教育を充実させることが目的」と Innovation KUIS プロジェクトでは常に意識して取り組んできた。全面的な

オンライン授業を実施してから、徐々に対面での授業の割合を多くして現在に至るが、実際にオンライン授業を実践した教員にも度々伝えてきたことにより、単なるオンラインによる授業の実践に留まらず、オンラインの良さを活用した授業の実践に広げられたのではないかと感じている。

また、プロジェクトによるサポート活動において常に意識していたのは、プロジェクトが教員に「指導」するのではなく、あくまでも「サポート」し、教員によるオンライン授業の実践を「応援」する立場であるということである。

2021年度からの Innovation KUIS プロジェクトは、大学の DX（デジタルトランスフォーメーション）推進全体を担うこととなり、オンライン授業支援はその一部となった。しかしながら、この1年以上の経験をもとに得られた知見は、本学として質の高い学習機会を提供するために、これからの教育や学習を実践する上で重要であると考えられる。そのために、今後も教員、職員、そして学生とともに、それぞれの経験や知見、あるいは新たな技術や手法を活用して取り組みを進めて行きたい。

#### 参考文献

〈学内レポート〉教育プロジェクト「Innovation KUIS」神田外語大学 <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/campuslife/innovation/> (2021年12月20日閲覧)